

四中だより

No. 5

令和2年（2020年）6月15日

枚方市立第四中学校

校長 鶴島 茂樹

いよいよ学校再スタート！！

<「当たり前」の一日一日を大切に過ごそう>

学校の存在の大きさを実感 「みんなの広場」（毎日新聞 6/11 付け）より

* 私は先日、ようやく高校生として初登校し、新しいクラスメートや先生方に会い、話すことができました。教室でクラスメートと話をしていた際に、約2カ月に及ぶ休校期間中に自宅で自分なりに楽しんだことと、学校で友達とたわいもない話をして盛り上がることは、やはり別物だと思い、「学校」の存在の大きさを実感させられました。

また、1日のほとんどを自宅で過ごさざるを得なかった休校期間中、中学生の頃からを含め、1日のうち学校の授業や放課後の部活動が占める時間の長さを実感し、新型コロナウイルスが流行するまで当たり前で過ごしていた日々の学校生活がいかに大切かということ、改めて感じました。

早くコロナ禍が終息して学校が本格的に再開され、人との距離を保つ「ソーシャル・ディスタンス」、「フィジカル・ディスタンス」などを気にせず、友達同士で会話し、笑いあえる日が戻るのが待ち遠しいです。

（東京都・15歳）

「学校」の存在の大きさ・・・この長い休校期間中、世間で最も話題にされていたことは、「授業の遅れ」、「学力の差」についてだった。もちろん、学校生活の中心は授業であることにはまちがいがなく、今日から6時間の授業が開始され、「遅れ」を取り戻すために、夏休みや冬休みが短縮され、3年生では、時には7時間授業も実施されることになる。

しかし、学校という場はそれだけのためにあるのではない、ということをみんなはよく知っているはずだ。教科書の勉強よりも時にはずっと大切な「学び」が学校生活の中には詰まっている。

いろんな人と出会うこと、話すこと、意見を交わすこと・協力して何かを成し遂げること・クラスの中で自分の役割を見つけそれを果たすこと・友達の喜びや悩みを共有すること・相手の立場や気持ちを想像し、尊重すること・みんなが楽しく過ごせるよう、ルールやマナーを守ること等々・・・これらすべてが、学校という場だからこそ得られる貴重な「学び」だ。

さあ、まずは学級目標づくり、班づくり。そして、授業も含めてたくさんのことを学んでいこう。とりわけ、3年生にとっては、義務教育最後の1年、最後のクラスだ。みんなにとって最高の1年、最高のクラスを創り上げていこう！